

「日本の庭」の要約

第一段

日本の庭は、最も [] で、 [] で、 [] 。しかし、なぜ日本の庭が [] のか、なぜ [] 庭が [] が、 [] な美しさが [] な美しさに通じていることは知られていない。

例えば、 [] が日本では生きていないことは、我々が日常立ち返るような [] がいないことを意味している。

[] の古典に意味を見出せないものが、 [] の古典に意味を見出すことは難しい。 [] に根ざした芸術が [] を超え、 [] の感受性に結びついている作品が [] を越えて [] な世界に生きていることは、美しいのを見た [] から導き出される。芸術家の成功は一定の [] を与えるために、あらゆる手段を駆使することである。

第二段

修学院離宮の庭は [] が、竜安寺の庭は [] の中にある。修学院は [] の中に入り、竜安寺は庭を [] 。修学院の自然は [] 的、 [] 的、 [] 的で、竜安寺の自然は [] 的、 [] 的、 [] 的である。修学院は [] 対 [] の対立は意識されず、自然を [] 、 [] をとらえない。竜安寺は [] に対する [] として意識され、自然を [] 、 [] をとらえている。しかし、それら庭は [] ではなかった。宇宙は、その中に身を置くところのものである。

その中に [] ことができる、 [] 世界、 [] から区別され、 [] の中に限られたものでなく、一切を [] 、その中で [] 、 [] 、 [] ことができる、唯一の [] である庭を誰が造ったか。

第三段

人は [] の中に [] ことができるだけである。 [] の上に出て、初めて庭を [] というよりも、 [] の中にいる自分自身を [] 。その世界には [] がなく、 [] されているが、無限に [] 。人は [] の中にある。 [] の中にいるように。

ここにはこの世のあらゆるもの、 [] の美しさや [] の美しさが、この世のものとは異なる [] の中にある。

日本の庭の要約

第一段

日本の庭は、最も**大規模**で、**複雑**で、**美しい**。しかし、なぜ日本の庭が**美しい**のか、なぜ**古い**庭が**新しい**か、**日本的**な美しさが**普遍的**な美しさに通じていることは知られていない。

例えば、**近松**が日本では生きていないことは、我々が日常立ち返るような**古典**がないことを意味している。

自国の古典に意味を見出せないものが、**他国**の古典に意味を見出すことは難しい。

時代に根ざした芸術が**時代**を超え、**日本人**の感受性に結びついている作品が**民族的限界**を越えて**普遍的**な世界に生きていることは、美しいのを見た**印象**から導き出される。芸術家の成功は一定の**印象**を与えるために、あらゆる手段を駆使することである。

第二段

修学院離宮の庭は**境がない**が、竜安寺の庭は**額縁**の中にある。修学院は**自然**の中に入り、竜安寺は庭を**見る**。修学院の自然は**古代**的、**牧歌**的、**即自**的で、竜安寺の自然は**近代**的、**客観**的、**対自**的である。修学院は**自然**対**人間**の対立は意識されず、自然を**模倣**し、**本質**をとらえない。竜安寺は**人間**に対する**自然**として意識され、自然を**模倣せず**、**本質**をとらえている。しかし、それら庭は**宇宙**ではなかった。宇宙は、その中に身を置くところのものである。

その中に**入る**ことができる、**境のある**世界、**自然**から区別され、**額縁**の中に限られたものでなく、一切を**包み**、その中で**動き**、**生き**、**考える**ことができる、唯一の**宇宙**である庭を誰が造ったか。

第三段

人は**桂離宮**の中に**入る**ことができるだけである。**月見台**の上に出て、初めて庭を**見る**というよりも、**もつ一つの世界**の中にいる自分自身を**見出す**。その世界には**額縁**がなく、**境**されているが、無限に**遠い**。人は**第二の自然**の中にある。**夢**の中にいるように。

ここにはこの世のあらゆるもの、**自然の素材**の美しさや**人間的な形式**の美しさが、この世のものとは異なる**秩序**の中にある。

これは**覚めた**、**明晰**な、**精神**に訴える夢であり、タウトは「桂では、**目**が**考**
える」と言った。

桂離宮の庭には、**月波楼の海**、**賞花亭の森と峠**、**笑意軒の田園風景**、**松琴亭の山水**、**新書院の日常生活の五つの中心**があり、さらに**月見台**という**一つの中心**がある。五つの中心は**部分**として、**独立**の役割を果たしながら、一つ中心に**秩序**、**統一**、**調和**している。

第四段

桂離宮を作ったのはもう一人の**小堀遠州**であり、**自然劇**の作者として人間の歴史に記憶されねばならない。

「**万葉集**」の主題は美しい**自然**であり、美しさの理由は**日本の文化**の中にある。「**枕草子**」の**感受性**の鋭さ、「**今昔物語**」、「**徒然草**」の**観察**の細かさ、「**新古今集**」の美的な**自然哲学**、**能の象徴主義**、**茶の芸術的生活**に受け継がれ、**伝統**として生命を失が、「**奥の細道**」などでよみがえりながら次第に衰える。明治になって**子規**を通じて**私小説**に流れ込むが、**総合的**、**本質的**に現れたのは**庭**である。

桂離宮は**華麗**ではないが**美しい**世界、**巨大**ではないが**力強い**世界、**技巧的**ではないが**技巧を超えた世界に支配**されている。**分析**できない、**法則**に還元できない、**精神**に対立し、**抵抗**でありながら、芸術家を**包み**、最後の**目標**としてある自然は、**全体**として表現されたものである。ここにある**日本的**なものが最も**普遍的**なものである。

第五段

ボオが描いた「**アルンハイムの庭**」は、**第二の自然**であり、最も人間的精神の**自己実現**の場所を作り出した。その仕事の**結果**はわからない。なぜなら芸術は、**知性**のみによつては造られず、**法則の限定**の内側に**無限の可能性**を持つものだが、**批評家は知性と法則**の領域を超えることができないからである。ボオが言ったように「**結果**をもって計るほかない」のである。

日本の庭造りは、**究極**まで、自然の**本質**そのものの美しさまで究めねばならない。その極みにおいて、最も**特殊**な世界は最も**普遍的**な世界に通じ、**結果**を得た。

庭について語るべきこと、「**庭は美しい**」ということしかない。